

2005年8月1日
日経産業新聞2面

資源探索
生物探

マレーシア企業と研究

ニムラ、医薬など応用へ

【クアラルンプール】

伊東義章】バイオベンチャーのニムラ・ジエネティック・ソリユーションズ（神奈川県厚木市、清田圭一社長）は、マレーシア・ペラ州のバイオ産業振興企業バイオペラ・マレーシアと州内で生物

資源探索の共同研究に着

手することで合意した。広大な森林に生息する薬用・食用植物などの特性や利用法を調べ、医薬品や食品、化粧品への応用を目指す。ニムラの現地法人とバイオペラ、ペラ州開発公

社の三社が期間二年で一

年ごとに自動更新する覚書に調印した。取り扱う生物ごとに契約書を調印して研究を進める。同州には面積九千万平方メートルに及ぶベルム熱帯雨林がある。世界最大の花のラフレシアや低木のト

ンカット・アリなど薬効成分として利用可能な植物も多い。先住民族の利用法も調べ、植物のデータベースを整備する。

三社は共同で州内に研究所を設置し、収集したサンプルの特性や有効成分の抽出法などについて研究する。商業利用が有望な植物はペラ州にある植物公園やバイオパークなどの施設での栽培にも取り組む。ニムラは同国

でマレーシア国立森林研究所、サラワク生物多様性センターと微生物研究で提携している。ペラ州での共同研究で微生物に加え植物資源の採集や実用化に向けて足掛かりを築く。

マレーシアは微生物など生物資源の多様性で世界十二位に位置づけられ、政府はバイオ団地や国立研究所、首相直轄の「マレーシア・バイオテクノロジー社」の設置などバイオ産業振興に力を入れている。ペラ州も二〇〇四年に生物資源の利用促進やバイオ産業の競争力向上のためにバイオペラを設立した。